

国語

令和八年度

本検査 学力検査

国語

問題用紙

解答上の注意

解答する際に字数制限がある場合には、句読点や「」などの符号も字数に数えること。

聞き取り検査受検上の注意

- (1) 最初に聞き取り検査を行います。
- (2) 聞き取り検査は放送で行います。問いも放送します。放送は全て一回だけです。
- (3) 放送終了までは、3ページ以降を開いてはいけません。
- (4) 放送中に、1ページと2ページにメモをとってもかまいません。

(注意事項)

- 一 放送で指示があるまでは、開いてはいけません。
- 二 答えは、HB又はBの鉛筆(シャープペンシルも可)を使って、全て解答用紙に記入しなさい。
- 三 検査問題は、大問七題で、1ページから14ページまで印刷されています。また、解答用紙は、両面に印刷されています。
- 四 検査開始後に、印刷のはっきりしないところや、ページが抜けているところがあれば、手を挙げなさい。
- 五 氏名、受検番号は、解答用紙の決められた欄に書き、受検番号は、その数字の○の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 六 マーク式で解答する問題は、○の中を正確に塗りつぶしなさい。

良い例	悪い例
	
	
	
	
	
	
	

- 六 記述式で解答する問題は、解答欄からはみ出さないように書きなさい。
- 七 答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書き、消しくすを残してはいけません。
- 八 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしてはいけません。
- 九 解答用紙だけ提出し、問題用紙は持ち帰りなさい。

令和八年度 **本 検 査** 学力検査
国語聞き取り検査放送用CD台本

(チャイム)

これから、国語の学力検査を行います。まず、問題用紙の1ページと2ページがあることを確認しますので、問題用紙の最初のページを開きなさい。

(3秒空白)

確認が終わったら、問題用紙を閉じなさい。1ページと2ページがない人は手を挙げなさい。

(5秒空白)

次に、解答用紙を表にし、受検番号、氏名を書き、受検番号は、その数字のマーク欄を塗りつぶしなさい。また、解答用紙の裏にも受検番号を書きなさい。

(40秒空白)

最初は聞き取り検査です。これは、放送を聞いて問いに答える検査です。問題用紙の1ページと2ページを開きなさい。

(2秒空白)

一 これから、波木中学校の杉田さんと坂井さんが、総合的な学習の時間に調べた内容について話す場面と、それに関連した問いを三問放送します。よく聞いて、それぞれの問いに答えなさい。

なお、やりとりの途中、(合図音A)という合図のあと、問いを放送します。また、(合図音B)という合図のあと、場面の続きを放送します。

1ページと2ページにメモをとってもかまいません。では、始めます。

杉田 坂井さん。今日の授業では、スマートフォンやパソコンなどのデジタル機器に関する記事が多く出てきたね。

坂井 そうだね。私はその中で、「デジタルデトックス」という、一定期間、デジタル機器と距離を置くことで、ストレスを軽減させる取り組みに興味を持ったんだ。

杉田 距離を置くこととストレス軽減とは、どのような関係があるのだろうか。

坂井 ストレスの主な原因の一つに、「情報の洪水」とあったよ。デジタル機器を使用している時間が長ければ長いほど、対処しきれないほどの大量の情報が脳を混乱させてストレスがたまってしまうんだって。だから、距離を置くことで、ストレス軽減になるんだよ。

(合図音A)

問いの(1) 坂井さんはストレスの原因とそれを軽減する方法について、どのように説明しましたか。最も適当なものを、選択肢A～Eのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

(15秒空白)

(合図音B)

坂井 実際に、ある高校で「スマホ・デトックス・プロジェクト」を立ち上げたという記事があったよ。

杉田 生活に深く関わるスマートフォンを完全に使えないようにすることで、ストレスを軽減させるのかな？

坂井 そうではないみたいだよ。デジタル機器から離れられるような対策をして自分の生活を見直すための取り組みなんだって。ただ、それを含めてデジタルデトックスは「成功させよう」という気持ちだけでは失敗が多いみたい。いきなり生活習慣を大きく変えるのは難しいし、「自分の生活を見直す」という明確な目的があると成功しやすいのかもね。

杉田 日常的に節度を守ってデジタル機器を使用する習慣がつくといいよね。

(合図音A)

問いの(2) 二人の話の内容から、どのような方法であればデジタルデトックスが成功すると考えられますか。最も適当なものを、選択肢A～Eのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

(18秒空白)

(合図音B)

杉田 デジタル機器によるストレスは、社会問題になっている部分もあるけれど、使えなくなると仕事で使っている人や自分たちも困るよね。

坂井 デジタル機器の良い面は残して、ストレスがかかっている面の改善を考えないとね。

杉田 デジタルデトックスをすることで、今より、快適に毎日が過ごせるようになるかもしれないね。よし、自分もやってみよう！

坂井 うん。実践することで、デジタル機器によるストレスと社会問題との関連についての検証もできるね。

(合図音A)

問いの(3) 坂井さんはなぜ「デジタル機器によるストレスと社会問題との関連についての検証もできる」と考えたのですか。最も適当なものを、選択肢A～Eのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

(5秒空白)

放送は以上です。3ページ以降も解答しなさい。

※注意 各ページの全ての問題について、解答する際に
字数制限がある場合には、句読点や「」などの
符号も字数に数えること。

— これから、波木中学校の杉田さんと坂井さんが、総合的な学習の時間
に調べた内容について話す場面と、それに関連した問いを三問放送しま
す。よく聞いて、それぞれの問いに答えなさい。

(放送が流れます。)

(1) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

ア まず結論を示し、その理由をふまえて最後に原因を話している。
イ まず結論を示し、次に考えを整理して最後に原因を話している。
ウ まず原因を示し、次に活用例を挙げて最後に結論を話している。
エ まず原因を示し、その内容を説明して最後に結論を話している。

(2) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

ア ストレスの原因をすぐにでも解消できるように、スマートフォン
やパソコンの購入を控えて自分の生活を改善するという方法。
イ デジタルデトックスをする意義を考えうえで目的を設定して、
スマートフォンやパソコンの使用時間を決定するという方法。
ウ デジタルデトックスを成功させる強い決意を持つて、スマート
フォンやパソコンの使用時間を大幅に減少させるという方法。
エ スマートフォンやパソコンの使用目的を明確にして、自分の生活
を見直すために生活スタイルを大きく変えていくという方法。

(3) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

ア デジタルデトックスに取り組むことで、生活環境を大きく改善す
ることができて、「スマホ・デトックス・プロジェクト」を自分たち
でも立ち上げられると考えたから。
イ デジタルデトックスに取り組むことで、その詳しいやり方につい
て身をもつて理解することができて、周囲の人たちに成功する方法
を正確に教えられると考えたから。
ウ デジタルデトックスに取り組むことで、デジタル機器によるスト
レスの原因について知ることができて、実行の前と後で変化したこ
とを自ら確認できると考えたから。
エ デジタルデトックスに取り組むことで、デジタル機器の過度な使
用によるストレスを軽減することができて、多くの人たちとより良
い関係を構築できると考えたから。

聞き取り検査終了後、3 ページ以降も解答しなさい。

二 次の(1)～(4)の——の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- (1) これは祖父に宛てた手紙だ。
- (2) 家の電力を太陽光発電で賄う。
- (3) ラベンダーの花の芳香が広がる。
- (4) 美しい丘陵地帯を見渡す。

三 次の(1)～(4)の——のカタカナの部分の漢字に直して、楷書で書きなさい。

- (1) 友人との約束をハたす。
- (2) 選手の気持ちを応援でモリ上げる。
- (3) この会場のキュウゴ室はあちらです。
- (4) 作品にカチヨウ風月が描かれる。

四 次の文章を読み、あとの(1)～(6)の問いに答えなさい。

一九世紀初頭にカメラ・オブスキュラが発明されてまだ二〇〇年も経たないのだが、いまでは携帯電話に高性能なカメラがついていて、写真を撮ることがあまりにも手軽で身近になり、わたしたちは日々の生活における記録を写真という媒体に残すことがものすごく容易になった。それにより、人間は感動した瞬間という忘れたくない時間を少しは忘れないで記憶に留められるようになったと考えられる。

しかし、本当にそうだろうか。怪しい。
むしろ、写真を撮るという行為があまりにもイメージ(簡単)になってしまったが故に、感動を閉じ込めるといふ意識がめつり薄れてしまっていないだろうか。忘れたくないという気持ちの発露からシャッターを切るのではなく、記録という手段がすっかり目的になり下がってしまった。撮ることだけで満足してしまいがちになった。要は、せっかく撮られた写真が、あまり見られなくなってしまったのである。プリントされることもなく、ほとんど見られることもない膨大なデータだけが携帯電話のなかやパソコンのハードディスクに亡霊のようにみえるストックされていく。

でも、本来ひとは写真を撮る瞬間に、なにかの衝動に駆られてシャッターを切っているはずだ。感情に語りかけてくるそのなにか、言葉にならないなにかに、それぞれの身体が反応して写真を撮ってきたのではないか。そうしたイメージがそれぞれの内なる世界観を構築する材料となっていくためには、当たり前だが、写真を見ないといけない。

美しいと思つて撮った教会の写真を見みると、ゴツゴツした壁に綺麗な光が陰影をつくっていることや、雨などが染み込んだことで折り重

なつた時間の表情が感じられたり、吸い込まれるように透き通った空に浮かぶ雲の造形と教会の塔のシルエツトが妙にシンクロして美しく感じられたりと、実際の教会を前にして感じた質感とはまた違ったものが、写真を前にして見る時間をたつぷりもつことで獲得できる。

写真は意図したものがそのまま撮れるわけでもないし、逆に意図せぬものまで写ってしまうところに妙がある。何故なら、太陽の下では平等に光線が地球上の表面に降り注がれるからだ。わたしたちの目が世界を見ることはできるのは、すべてこの光のおかげなのだ。

だから光に晒された外の世界をカメラで切り取って写真に残し、撮られた写真をじっくり眺めることで世界をより知ることができる。わたしたちは写真、つまりイメージを見ながら考えて、世界を少しずつ自分なりに知っていく。そう考えると「写真を撮ること、写真を見ることをちゃんと分けて考えないといけない」と理策さんが言つたのは、写真を撮るという行為が目に見える風景から「考える」という時間を写真を見るときまで「先送り」していることに對する違和感というふうにも受け止められる。

わたしたちの眼はつい見たいものだけを見てしまう傾向がある。見えないものは、どうしたって見えない。自分が立っている場所から見るといふ視点が絶対に存在し、そのため死角という見えない場所がつねに存在する。つまり、世界全体を俯瞰的に捉えることは、理論的に不可能なのだ。

そんな眼の延長としてカメラを考えると、写真に収めることができるもの、もちろんレンズに収まる範囲だけということになる。意識的にせ

よ、無意識的にせよ、写真に写っているのは、いつだって切り取られた世界の断片である。しかし、撮ることと同様にたいせつなのが、撮った写真を徹底的に見るということであるのは、見ることを通して写真を理解し、偶然を捉え、世界に暫定的な解釈を与えることが可能になるからだ。ゆらぎ続ける不確実な世界を透明な目でなるべく正しく認識し、不完全な自分をつくり変えることができるようになる。

建築雑誌で美しい建築の写真を見ても、実際に訪れた建築で感じたものとは大きなギャップがあるように、自分で撮った建築の写真であつても、自分がそこで感じた建築の体験と写真に捉えられたイメージは決して同じではない。だからこそ「記録」として撮った写真を、それこそ穴が開くまで見てみることで、体験したことを思い出し、脳内で自分の記憶として血肉化することができると、思った。建築と対話しながらスケッチすることが単なる記録を超えて、描いたひとつひとつの血の通った「記憶」となつて定着することができるように。

だから、写真を撮ることだつて、スケッチ同様、しっかりと写真を見ることを通して持続的に思考する時間を確保することができれば、記録から記憶へと深化することができのかもしれない。そのためにはやはり、撮った写真を携帯やパソコンの画面で見るとはなく、ちゃんとプリントアウトして見ることでイメージと向き合いたい。長い時間をかけてイメージを見ることでしか思い出すことのできなかつた些細な発見がある。イメージが誘発する関係性のジャンプが必ずある。だから画像を溜め込むのではなく、プリントして見ることで、イメージを咀嚼し、自分の世界を見る目を鍛えて、豊かな感性を育てたい。

(光嶋裕介「つくるをひらく」による。)

(3) 文章中に、撮られた写真をじっくり眺めることで世界をより知ることができるとあるが、その説明として最も適当なものを、次のア、エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア わたしたちの眼には見たいものだけを見えるという身体的傾向があるため、レンズに収まる範囲を限定することで、世界に暫定的な解釈を与えられるということ。

イ わたしたちの眼には太陽の下でしか世界を認識できないという特徴があるため、カメラを眼の延長として用いることで、暗闇でも視界を獲得できるということ。

ウ わたしたちの眼には意図しないものまで見えてしまうという特性があるため、写真を繰り返し返して見ることで、現実の世界における断片を理解できるということ。

エ わたしたちの眼には死角という見えない場所がつねに存在するため、撮った写真を見て考えることで、目に映る世界以上の多くのものを捉えられるということ。

(注1) カメラ・オブスキュラⅡ小さな穴を通して光を取り込み、外部の景色を箱や部屋の壁に映し出す装置。写真機の原型。
(注2) 発露Ⅱ心の中の事柄がおもてにあらわれること。
(注3) ストックⅡ蓄積すること。
(注4) 理策さんⅡ鈴木理策、和歌山県出身の写真家。
(注5) 俯瞰Ⅱ高い所から見下ろすこと。
(注6) ギャップⅡへだたり。相違。
(注7) 咀嚼Ⅱ意味、内容をよく考えて味わうこと。

(1) 文章中の①～④の四つの語のうち、活用の種類が異なるものを一つ選び、その符号を答えなさい。

(2) 文章中に、本当にそうだろうか とあるが、そのように考える理由を説明したものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 携帯電話に高性能なカメラがついていて、感動した瞬間を収めた写真をいつでもどこでも見ることができるようになったから。

イ いまでは写真を撮る行為が身近になり、忘れたくない感動を記憶に留めるためという意識でシャッターを切らなくなつたから。

ウ 日々の生活を写真に撮るという手段が目的となる一方で、人間は感動した瞬間を記憶することで満足できるようになったから。

エ ひととは本来なにかの衝動に駆られて写真を撮るものなので、膨大な写真データを保存できる記録メディアが必要になつたから。

(4) 文章中に、違和感 とあるが、ここでの「違和感」の原因を端的に表したものと最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 実際の体験と写真化された画像とのずれ。

イ 光に晒された世界と内なる世界とのずれ。

ウ 現実世界と脳内の自己イメージとのずれ。

エ 自分自身と他者が見ている世界とのずれ。

(5) 文章中の、血肉化することができるとあるが、筆者が著した次の文章をふまえて、あとの問いに答えなさい。

わたしたちの日常は「つくる」にあふれている。身体が循環(生命)によって生きているのは、わたしたちが無意識につねにつくっているからであり、つくることを使うことも含めた大きなサイクルとして認識することができれば、生きるための視野や関心が広がっていく。「考える」ことが、自分の新しい言葉をつくることであるように、身体感覚をオープンにして、日常生活を丁寧に生きることだ。

(光嶋裕介「つくるをひらく」による。)

貴音が舞台上に立っているのは未だに想像がつかない。だがそんな大事なところでも、頭の片隅に花いけバトルのことを置いてくれていると思うと嬉しかった。

「その時に気が付いたのは、この花いけバトルを舞台の上でやる意味さ」

「え？」

「今まで花に興味がなかった人にも楽しんで欲しいから、運営側は舞台の上で多くの人に見て貰おうとしている訳だろう？」

貴音はいつになく真剣で、身振り手振りを交えながら語った。

「うん。それで私も興味を持った訳だしね」

「じゃあ、出る側は何を考えてる？」

「それは……いい作品を見て貰いたいって……」

「それはみんなが持っている心構えだろう？ じゃあ、これまでそうだったように、展示会でよくないか？」

貴音が何を言いたいのか、^(注3) 臆気ながらわかり始めた。貴音は少し間を置いて細く息を吐いて続けた。

「もう一つ。参加する俺たちが持たなきゃならない覚悟がある」

「それが舞台上上がるということ……」

「ああ、俺はDVDの中で、参加者がお客さんに背を向けているのに、凄いと違和感があった。俺が舞台上でそんなことすれば、親父に

I

なるほどと思った。生まれた時から舞台が身近にあった貴音らしい考えである。

「でも花をいけるのを見に来ている訳だし、そこまで……」
「春乃、これだけは II」
貴音の声が低くなった。怒っているという訳ではない。言葉の中に何か揺るぎない強さを感じた。

「舞台上に上がれば、観客に礼をもつて接し、技をもつて魅せ、心を届けるように努める。板の上で何をしていてもそれは変わりねえ」

「流石……貴音は舞台でお金を頂いているんだもんね」

自分と同じ十七歳の高校生が、ここまで確固たる信念を持っていることに、春乃は感心してしまっている。

「二円でも頂けば玄人。それは当然だ」

貴音の口調が急に変わり、春乃は唇を結んで頷く。

「今村翔吾『ひゃっか！』による。」

(注1) 花いけバトル II 観客の前で即興で花を生け、その優秀を競う大会。

ここでは、花を生ける所作を「花いけ」と言っている。

(注2) 舞台の本番 II 貴音が家業で行っている大衆演劇 (一般大衆を対象にした娯楽性の高い演劇の本番)。

(注3) 臆気 II はつきりしない様子。ぼんやりかすんだ様子。

(注4) 玄人 II ある技芸に熟達している人。専門家。

(1) 文章中に 貴音の分析に春乃も大いに領けた とあるが、貴音の分析として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 作品の出来にはそこまでの差はないために、舞台上上がるまでの過程に高得点の手がかりがあるという分析。

イ 観客は花をいける所作の知識がないために、見た目が派手なパフォーマンスを好む傾向にあるという分析。

ウ 審査は花をいける所作も対象であるために、高得点を獲得するには観客を惹き付ける工夫が必要という分析。

エ 竹を鋸で切るにはかなりの力と技術が必要のために、作品の出来以外の所でもアピールができるという分析。

(2) 文章中に ふふ…… とあるが、このときの春乃の心情を説明したものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 貴音の花いけバトルに対する気持ち強いことが分かり、真剣に試合のことを思う姿に好意的な気持ちになった。

イ 台詞が飛んでしまった貴音のいつもとは違う姿に、自分しか知らない秘密ができたことと誇らしげな気持ちになった。

ウ 貴音の引つかかっていたことが大したことではないと分かり、これまでの緊張感がほぐれて楽な気持ちになった。

エ 台詞が飛んでしまうほど深刻に考えていたことを知り、貴音と一緒に優勝できるという気持ちになった。

(3) 文章中に 貴音は少し間を置いて細く息を吐いて続けた とあるが、その理由として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 出場する側ではなく運営側の心構えを確実に共有するために、今までの話を分かりやすく整理させたから。

イ これから話す計画の重大さを確実に理解してもらうために、これまでの悲観的な雰囲気を一変させたから。

ウ 出場する者みんなが持つ心構えを正確に理解してもらうために、これから語る内容に重みを持たせたから。

エ ずっと考えてきたことの答えに正確さと重みを持たせるために、一度自分の心の状態を落着かせたから。

- (4) 文章中の I、II に入る言葉の内容として最も適当なものを、それぞれ次のア～オのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

I
 ア 称賛される
 イ 怪しまれる
 ウ 感心される
 エ 叱責される
 オ 恐れられる

II
 ア 譲歩できない
 イ 信頼できない
 ウ 考慮できない
 エ 選択できない
 オ 理解できない

六 次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

ある人、清水へまゐりけるに、老いたる尼の行きつれたりけるが、
(注1) ある人、清水へまゐりけるに、老いたる尼の行きつれたりけるが、
 (道で一緒になる)

道すがら「くさめくさめ」と言ひもて行きければ、「尼御前、何事を

かくはのたまふぞ」と問ひけれども、答へもせず、なほ言ひやまさりけ
(そんなにおしやるのですか)

るを、度々問はれて、うち腹たちて、「やや、鼻ひたる時、かくまじな

はねは死ぬるなりと申せば、養ひ君の、比叡山に兎にておはしますが、
(注2) はねは死ぬるなりと申せば、養ひ君の、比叡山に兎にておはしますが、

ただ今もや鼻ひ給はんと思へば、かく申すぞかし」と言ひけり。有り難
(もしや今すぐにも)
(こう申しているのですぞ)

き志なりけんかし。

(徒然草による。)

(注1) 清水＝清水寺。

(注2) 比叡山＝天台宗の総本山延暦寺がある山。

- (5) 文章中の 貴音の口調が急に変わり、春乃は唇を結んで頷くにつ
 いて、次のようにまとめます。
D に入る言葉を、「舞台」、
 「観客」、「信念」という言葉を使って、三十字以上、三十五字以内で書
 きなさい。

花いけバトルに対して、貴音は と考えていることに
 春乃は改めて気付かされ、そのことに強く同意した。

- (6) この文章の表現の仕方について述べたものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。
 ア 湧き出る感情を押し殺そうとする春乃の様子を、会話の最後の部分に「……」を用いることでより象徴的に表現している。
 イ 良い結果を残そうと試行錯誤する二人の様子を、情景描写に色彩に關係する言葉を用いることで写實的に表現している。
 ウ 時間の経過とともに貴音に魅了されていく春乃の様子を、一文を短くしてリズムよく描くことで印象的に表現している。
 エ 本番前の緊迫した中で激しく意見を交わす二人の様子を、それぞれの視点に立ちつつ描くことで客觀的に表現している。

- (1) 文章中の なほ言ひやまさりける を現代仮名づかいに改め、すべてひらがなで表したのとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。
 ア なほいいやまさりける イ なおいいやまさりける
 ウ なおいいやまさりける エ なをいいやまさりける

- (2) 文章中の うち腹たちて の主語にあたるものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。
 ア 兎 イ ある人 ウ 養ひ君 エ 尼

- (3) 文章中に かくまじなはねは死ぬるなり とあるが、この言葉の意味として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。
 ア このようにおまじないをしないと、死んでしまうものだ。
 イ このようにおまじないをしないと、死に至らないものだ。
 ウ このようにおまじないをしたから、助からなかったのだろう。
 エ このようにおまじないをしたから、確実に助かったのだろう。

- (4) 文章中に「有り難き志なりけんかし」とあるが、作者はどのようなことに対して、「有り難き志なりけんかし」と述べているか。最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。
- ア 尼が、たくさんのおまじないを知っていて、比叡山にいる多くの子が幸せになりますようにと祈っているということ。
- イ 尼が、育てた子にとっても深い愛情を抱いており、遠く離れている場所においてもいつもその子案じているということ。
- ウ 尼が、ある人と一緒に徒歩で行くにはあまりにも遠くにある清水寺まで訪れるくらい、深い信仰心があるということ。
- エ 尼が、ある人と一緒に清水寺への長い道を進む中で、言い争いを一切せず仲良くたどり着くことができたということ。
- (5) 次は、この文章を読んだあとに、林さんと東さんがこの作品の感想について話し合っている場面の一部です。これを読み、あとの(a)～(c)の問いに答えなさい。

林さん 「くさめくさめ」は、「休息万命」を早口言葉で言う「くさめ」と聞こえるところから、病魔から逃れる呪文という説があるよ。

東さん なるほど。私は文章中の「鼻ひ」を調べたら、『枕草子』の「くきもの」で「鼻ひて誦文する」という言葉を見つけたよ。「**I**」、まじないの文句を唱える」という意味らしいよ。平安時代以降、それは悪いことの前兆と信じられていたから、災厄を免れる習慣だったみたい。

七 次の文章とそれをふまえた「二つの考え方」を読み、あとの(条件)にしたがい、「注意事項」を守って、あなたの考えを書きなさい。

アンド
Old & New

電動歯ブラシが登場しても
歯ブラシは捨てなかった。

ワンタッチ式傘が登場しても
普通の傘は捨てなかった。

テレビが登場しても
ラジオや映画はなくなったりしなくて

新しい歌がヒットしても
昔の歌は歌い継がれている。

新しいものは歓迎され
馴染みあるものは大切にされる。

(キム・ウンジュ/文 小笠原藤子/訳『+1 cm LIFE』による。)

林さん そうなんだね。そういえば、この間、先生が授業で紹介してくれた『論語集注』に、「父母愛子之心無所不至」とあったよ。これは「親が子を愛する心は、どんなことにも及ばない」ということなんだって。この「父母」と同じように、「尼」も描かれているのではないかな。

東さん 読み返したら、ますます「尼」の **II** が伝わってきたよ。

- (a) **I** に入る言葉として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。
- ア くしゃみをして イ 鼻水を出して
- ウ いびきをかいて エ 鼻歌を歌って

(b) 父母愛子之心無所不至 について、この文を訓読するために「父母、愛子、之、心、無、所、不、至」とした場合、その書き下し文として正しいものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

- ア 父母の愛する子の心は至らざる所無し
- イ 父母の愛する子の心は至らざる所なし
- ウ 父母の子を愛するの心は至らざる所無し
- エ 父母の子を愛するの心は至らざる所なし
- (c) **II** に入る言葉を、「……ないように……」という形を使って、二十字以上、二十五字以内で書きなさい。

二つの考え方

A 今後は、新たなものを受け入れながらも、これまで慣れ親しんできたものこそいつそう大事にしていくなさそう。

B 今後は、これまで慣れ親しんできたものを大事にしながらも、新たなものこそいつそう受け入れていくべきだろう。

(条件)

- ① 二段落構成とし、十行以内で書くこと。
- ② 前段では、AとBのうちどちらかを選び、それを選んだ理由を書くこと。
- ③ 後段では、前段の内容に関連させて、自分の体験(見たり聞いたりしたことも含む)を取り入れて、ものに対するあなたの考えを書くこと。

(注意事項)

- ① 氏名や題名は書かないこと。
- ② 原稿用紙の適切な使い方にしたがって書くこと。
- ③ AとBのどちらを選んでも、そのこと自体が採点に影響することはない。